

電波資源拡大のための研究開発 平成17年度公募案件基本計画書の評価

案件名	実施期間	コメント
移動通信システムにおける高度な電波の共同利用に向けた要素技術の研究開発	H17-19	<ul style="list-style-type: none"> ・対象周波数帯域がVHFから低マイクロ波帯と広範囲に亘っており、実装上実用化は難しいと思われる。については、公募に当たって実用化までのシナリオの明確化を提示させること。まず、どこまでを実用化第1段とするのか明示させること。 ただし、採択評価に当たっては、下記を考慮する必要がある。 ・一社に頼ることなく、産学官の総力を発揮できる体制 ・NICTが実施する要素技術開発と委託先に実施させる技術開発との連携
衛星通信と他の通信の共用技術の研究開発	H17-19	-
レーダーの狭帯域化技術の研究開発	H17-19	<ul style="list-style-type: none"> ・どのくらいひっ迫度を改善するのか、目標の中で明確化すること。 ・目標値については、時期やコストの違いがあり、一律ではなく3種類の方法別に実用化の将来見込みを提案させること。
高マイクロ波帯への周波数移行の促進に向けた基盤技術の高度化のための研究開発	H17-21	<ul style="list-style-type: none"> ・低コスト化が主目標であることが分かる書き振りにすること。 ・高マイクロ波帯に移行するシステムを、もう少し具体的に記載すること。 ・MEMS技術については、当該技術そのものの適用対象を含め、研究開発について、別途検討すること。
未利用周波数帯への無線システムの移行促進に向けた基盤技術の研究開発	H17-21	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発の国家的な位置付けについても言及すること。 ・移行システムの例示が誤解を与えるので、改善すること。
次世代無線通信測定技術の研究開発	H17-19	-
(全体)	-	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発の成果をいろいろな観点からみられるよう、また、評価が柔軟性を持てるよう、目標値の設定を考えるべき。